

カラーの3D地図が入っているので面白い。時間をおいてまた読み直したい本。

谷の先端部（谷頭こくとう）

関東地方では、台地上に複雑に刻まれた大小無数の谷間を「谷津（やつ）」「谷戸（やと）」と呼び、それに由来する地名も多い。

武蔵野台地と呼ばれる洪積台地は、砂礫（されき）層の上に火山活動による火山灰が風化してできた**関東ローム層（赤土）**を乗せている。段丘状の洪積台地は上部が平坦で、その標高によって**下末吉（しもすえよし）面**（海拔約30m以上）と**武蔵野面**（海拔約20m程度）の2つに大きく分類され、台地を刻む谷の性状にもはっきりとした相違点が見られる。

下末吉面に分類される淀橋台と荏原台では、台地の表面は平坦で、川は彷徨（さまよ）うかのごとく蛇行し、上流にゆくほど「鹿の角」のように枝分かれしていることが多い。谷は深く、密に分布するのが特徴だ。一方、**武蔵野面**（上野台・本郷台・豊島台・目黒台・久が原台）と呼ばれる台地では、流れる川には支流が少なく蛇行も比較的緩やかで、刻まれた谷は幅が広くなだらかなのが特徴である。

すでに述べたように、武蔵野台地では、堆積した**関東ローム層**が10m以上地表を覆っているが、これは元々は火山灰が降り積もった地層が長い年月で風化したもので、地質的には砂と粘土の中間（いわゆる泥）にあたる。そのため透水性が良く、降った雨が地中に浸透し、**ローム層下部の不透水層（東京層）**で湧く場合、水の圧力によって**ローム層が谷頭浸食**を起こし急峻な谷を形成する。斜面は断崖状、谷はスリバチ状なのは、厚く積もった関東ローム層ならではの特徴と言えよう。

アークヒルズ

アークは、Akasaka 赤坂、Roppongi 六本木の Knot 結び目の頭文字をとった。

六本木

我善坊谷がぜんぼうだに

狸穴町まみあなちょう

麻布・白金

渋谷川は、天現寺橋で**筈川**（こうがいがわ）と呼ばれた北からの流れを合わせ、**古川**と名を変える。上流部の渋谷川は台地を刻む谷間を流れる自然の河川の趣きがあるが、古川と呼ばれる下流域では低地をゆったりと流れ、水運にも利用できる「水路」の趣きで、呼び名の違

いは川の性格が異なる所以なのだろう。

④有栖川宮記念公園の谷

半島状の麻布台地の足元、広尾商店街として賑わうあたりはかつて筭川が流れていた低地で、その左岸、西向きの台地に湧き出た流れが刻んだ短い谷戸がある。ここは江戸時代には南部家の下屋敷として緑深い溪谷は大名庭園に活かされ、明治になってからは、有栖川宮家の新邸造成用の御用地として利用されてきた。昭和の初めからは**有栖川宮記念公園として一般公開**されている。園内には起伏を活かして、溪流や滝、池があり、谷戸特有の潤いある空気を味わいながら散策が楽しめる。麻布台地の高級住宅地・低地の広尾商店街・木々に包まれた谷戸庭園と、台地のキワを巡ることで、**地形が生み出した現代東京の様相を存分に味わうことができる。**

赤坂

なお太刀洗川の源流部は、現在の高橋是清翁記念庭園と思われる。この地は元々、丹波篠山藩青山家の中屋敷だった場所で、二・二六事件で生涯を閉じた高橋是清の自宅があった土地である。現在の庭園内には**水が湧き出る井戸が設けられている**が、谷頭の湧水みたいで面白い。

四谷

鏡ヶ淵 (あぶみがぶち)

荒木町の窪地 (金丸稲荷付近)

4周を段丘で囲まれた特異な一級スリバチ地形

戦後は近くの曙橋にテレビ局が

あったため業界人が多く訪れた。そんなツウの通う店で賑わった町は、テレビ局の移転で客足が減り始め、小粋な料理屋も多くがマンションに建て替えられた。しかし窪地を囲む飲食街は、都会の隠れ家としての異彩を今も放ち続けている。**都内のスリバチを紹介する場合、まず第一に推薦したい東京の代表的スリバチにかわりはない。**

ラビリンス

~~~~~

labyrinth とは【意味】 迷宮,迷路.

~~~~~

雑司ヶ谷

ホテル椿山荘東京は江戸時代には黒田家の下屋敷で、その後、明治の元勳・山縣有朋の所有となった。複雑に

入り組んだ地形を活かした池泉回遊式庭園として名高い。

碑文谷

都立大学駅も呑川の谷地にあり、開業当時の駅名は**柿ノ木坂**であった。九品仏川の谷地にあるのが**自由が丘駅**で、こちらの開業当時の駅名は初代「**九品仏駅**」。住宅地ではスリバチコードな駅名は敬遠されるのかもしれない。

廠（しょう） 工場のこと

台地の突端に限らず、町歩きでは歩道橋など高い所へ上るようにしている。坂や階段を上るのは楽ではないが、思いもよらず谷の、あるいは町の全体像を眺められる時があるからだ。そしてそこにはスリバチの広い空が待っている。

日比谷

④桜田濠の谷

外桜田門から三宅坂・半蔵門にかけては、武蔵野台地突端の雄大な崖地形が眺められる。高い芝土手の上の石垣と老松、対岸の近代的ビル群が濠の水面に映えるのは東京を代表する風景だが、これらは台地を開削した人工の谷の景観だ。これら的一大土木工事は、家康が東北地方の諸大名に命じて完成させたものだ。

おわりに

本書が出版に至ったのは、地形の起伏を分かりやすく表現し、スリバチの魅力をも十二分に紹介できる特製の**3D 地形図**が実現できたことによる。

荻窪圭『東京古道散歩』中経出版、2010年

神田川ネットワーク『神田川再発見』東京新聞出版局、2008年

酒井茂之「江戸・東京坂道ものがたり」明治書院、2010年

全国地理教育研究会「地図で歩く東京Ⅱ」古今書院、2002年

高山弘毅『東京湧水せせらぎ散歩』山丸善、2009年

田中正大『東京の公園と原地形』けやき出版、2005年

田中昭三『江戸東京の庭園散歩』JTBパブリッシング、2010年

タモリ「タモリのTOKYO坂道美学入門」講談社、2004年

寺田弘「東京このいとしき未完都市」日本国書刊行会、2000年

廣田稔明「東京の自然水 124」けやき出版、2005年
中川島隆「水道が語る古代ローマ繁栄史」鹿島出版会、2009年
村松伸＋東京大学生産技術研究所村松研究室
『シブヤ遺産』バジリコ、2010年
松本泰生『東京の階段』日本文芸社、2007年
三浦展「大人のための東京散歩案内」洋泉社、2006年
山野勝「江戸と東京の坂」日本文芸社、2011年
渡部一二「武蔵野の水路」東海大学出版会、2004年